

# 住宅の地方性小委員会 通信

主査：田中 勝 事務局：山梨大学大学院教育学研究科 住居学研究室

TEL&FAX 055-220-8226 E-MAIL: [tanaka@yamanashi.ac.jp](mailto:tanaka@yamanashi.ac.jp)

小委員会ホームページ：<http://news-sv.aij.or.jp/keizai/chihosei/> (管理：福井大学 菊地研究室)

| 2012年度・第1号 内容 (主要目次) |   |                             | [2012/09/06発行]  |       |
|----------------------|---|-----------------------------|-----------------|-------|
| 名古屋研究会<br>の開催について    | 2012年度建築<br>学会大会建築社<br>会システム部<br>門・研究協議会<br>の開催について | 第75回空間研<br>究小委員会研<br>究会のご案内 | 鹿児島研究会<br>の開催報告 | そ の 他 |

## ■名古屋研究会の開催について

建築学会大会時に開催している秋の公開研究会は、今年は名古屋市で開催いたします。研究会&見学会の企画・準備は東海学園大学の宮崎幸恵先生にお願いいたしました。居住施策から福祉施策、そしてまちづくりまで名古屋市における最新の取り組みがギュッと詰まった、中味の濃い研究会・見学会・懇親会メニューを組んでいただきました。研究会の内容については次の通りです。会場でみなさまにお目にかかれることを楽しみにしております。

今回の研究会は、①名古屋市住宅都市局の方からの市の住宅・居住施策（名古屋市住生活基本計画、取り組み等）のお話、②愛知県住宅供給公社の方から昭和30年前後に建設された公社住宅の建替えとして進めてきた事業（サンコート砂田橋 団地再生プロジェクト：一般公社住宅、高齢者優良賃貸住宅、医療施設、複合商業施設、住宅・福祉施設）のお話、③サンコート砂田橋 団地再生プロジェクトのなかの住宅・福祉施設の見学（小規模多機能型居宅介護施設、地域密着型特別養護老人ホーム、住宅型有料老人ホーム等）を予定しています。なお、施設側のご都合の関係で、はじめに③の住宅・福祉施設の見学を行います（宮崎先生のご案内状より）。

日時：2012年9月11日(火) 13:40～  
(受付13:15～)

場所：サンコート砂田橋集会所  
(サンコート砂田橋3棟内、右図参照)  
地下鉄名城線「砂田橋」駅下車1番出口より  
徒歩2分

参加費：500円 (集会所使用料、手土産等)

内容：

13:40～

小委員会主査挨拶

13:50～15:00

社会福祉法人サンライフによるジョイフル砂田橋の概要と見学

15:10～16:25

名古屋市の住宅・居住支援施策の現状と課題  
(名古屋市住宅都市局住宅部長 後藤氏)

16:25～16:35

休憩

16:35～17:50

サンコート砂田橋の全体計画の概要  
(愛知県住宅供給公社 小川道治氏)

18:45頃～

懇親会 旬彩の宴 会費：6,000円  
(名古屋市中区栄1-4-33 TEL. 052-218-1577)  
地下鉄(東山線・鶴舞線)伏見駅下車、7番  
出口より徒歩4分



## ■2012年度建築学会大会・建築社会システム部門・研究協議会の開催について

前号でご案内いたしましたように、今年度の建築学会大会では建築社会システム部門として研究協議会「東日本大震災一年半・初動期の住宅対策と住宅復興に向けた課題」を開催いたします。これまでにパネリスト等による打合せ会を重ね、また資料集編集委員会主査の菊地吉信先生のご尽力により、資料集もできあがりました。

資料集はA4版124ページで、パネリストによる主題解説論文6編に寄稿論文19編を加えた計25編の論文・報告を収録しています。頒布価格は1,100円です。大会会場内の資料頒布所にてお早めにお買い求めのうえ、研究協議会にご参加いただければ幸いです。

### 【大会研究協議会】

東日本大震災一年半・初動期の住宅対策と住宅復興に向けた課題

日時：2012年9月13日(木) 13:30~17:00

会場：工学部7号館701室

司会：碓田智子（大阪教育大学）

副司会：間野 博（県立広島大学）

記録：堀田祐三子（和歌山大学）

1. 主旨説明 田中 勝（山梨大学）

2. 主題解説

(1) 被災者向けの住宅対策の取り組みと課題（総論）

長谷川 洋（国土技術政策総合研究所）

(2) 福島型木造仮設住宅とコミュニティ再生への展開

鈴木 浩（福島大学名誉教授）

(3) 阪神・淡路大震災の教訓を活かした仮設住宅のコミュニティづくりと生活支援

石東直子（石東・都市環境研究室）

(4) ジェンダーの視点からみた避難所・仮設住宅から生活再建へ

中島明子（和洋女子大学）

(5) 宮城県における住宅対策と住宅復興に向けた現状と課題

石坂公一（東北大学）

(6) 東日本大震災における住宅復興に向けた課題

川崎直宏（市浦ハウジング&プランニング）

3. 討論

4. まとめ 間野 博（前掲）

資料集編集委員会主査：菊地吉信（福井大学）

（上記研究協議会の内容については『学術講演会 建築デザイン発表会プログラム』、p.38をご参照ください。）

## ■第75回空間研究小委員会研究会のご案内

建築計画委員会空間研究小委員会主催、及び住宅の地方性小委員会の共催として、次の研究会が開催されますので、多くのお参加をお願いいたします。

### 【第75回空間研究小委員会研究会】

住みつぐまちの姿としくみ

—中山間地域の居住持続性

日時：2012年10月6日(土) 13:30~17:00

場所：東京工業大学 田町キャンパス キャンパス・イノベーションセンター 806会議室

主旨：少子高齢化と人口減少のなかで人々の生活や住まいのあり方も変化している今日、居住環境をどのように描いてゆくかは大きな課題である。中山間地域は都市部に先行してそうした問題に直面してきたが、行政や住民による取り組みも重ねられてきた。ユニークな活動が転入者を呼びこみ、統廃合の危機にあった小学校の存続や地域行事の活発化など、居住持続の可能性を高めている好実践もみられる。そうした事例から住みつぐまちの姿を捉え、そのしくみや可能性を議論する。

司会：石垣文（広島大学）

記録：丹羽由佳理（東京理科大学）

1. 趣旨説明／佐野友紀（早稲田大学）

2. 話題提供

「中山間地域における住宅政策」

長谷川洋（国土交通省国土技術政策総合研究所）

「自治体による空き家バンクの実態と可能性」

山本幸子（筑波大学）

「地域住民による住宅新築の活動と転入者の生活」

岩崎積（有限会社ブルーリバー）

「小学校存続のための活動を契機とした居住持続への取り組み」

福田由美子（広島工業大学）

3. 全体討論

4. 閉会の挨拶／恒松良純（秋田工業高等専門学校）

定員：45名

参加費：会員1,500円、登録メンバー2,000円、会員外2,500円、学生1,000円（資料代含む）

申込方法：E-mailに「第75回空間研究小委員会研究会、参加費種別（会員番号）、氏名、勤務先・所属」を明記し、お申し込み下さい（定員に達した場合のみお断りの連絡をいたします）。

申込・問い合わせ先：森田進（日本建築学会事務局）  
[morita@aij.or.jp](mailto:morita@aij.or.jp)

アクセス：東京都港区芝浦3-3-6（JR 田町駅芝浦口から右方向の階段おりてすぐ）

## ■鹿児島研究会の開催報告

春の地方性研究会・見学会は5月18日(金)～20日(日)の日程で鹿児島県で開催いたしました。北海道から九州までの全国各地から23名のご参加を得て、とても充実した、楽しい研究会となりました。開催にあたっては鹿児島大学副学長・友清貴和先生、研究室助教の小山雄資先生、境野健太郎先生、そのほか関係各位にたいへんお世話になりました。あらためてお礼申し上げます。

鹿児島研究会の内容は次の通りです。集合時には桜島が噴煙を上げ、3日目は雨中のまち歩きとなり、解散時には鹿児島中央駅周辺にも降灰がみられました。その後も降灰が続いていると聞いておりますが、市民生活にこれ以上影響が出ないことを願っております。

鹿児島研究会に残金 10,215円が生じました。慢性的な活動資金不足の中、小委員会の今後の活動費として有効活用させていただきたく、ご理解とご協力のほどよろしくお願いいたします。



- 1) 日程 2012年5月18日(金)～20日(日) 2泊3日  
集合・受付：5月18日(金) 13:30～14:00  
解散：5月20日(日) 13:30頃 鹿児島中央駅
- 2) 参加者数 23名
- 3) 内容  
5月18日(金)

見学会[1] ①戦後ビルストックとその活用の試み（鹿児島駅前からマルヤガーデンズまでまち歩き）、②レトロフト千歳ビル（住商併存ビル活用事例）、③マルヤガーデンズ（百貨店ビル再生事例）、マルヤガーデンズにおけるコミュニティデザインの解説（丸屋本社、市村良平氏）

懇親会：魚処魚福

5月19日(土)

研究会『鹿児島県の住宅事情と住宅政策』

（於：レトロフト千歳ビル2階）

- ①開会挨拶 友清貴和氏（鹿児島大学副学長）
- ②鹿児島県の住宅政策  
豊嶋太郎氏（鹿児島県住宅政策室長）
- ③離島・中山間地域の居住政策  
小山雄資氏（鹿児島大学助教）
- ④質疑応答

昼食：奄美の鶏飯料理（ドルフィンポート）

見学会 [2] 中山間における集落維持に向けた試み、鹿児島市錫山地区等

見学会 [3] 知覧の武家屋敷と庭園

見学会 [4] 25年目の木造公営住宅、県営ウッドタウン知覧団地

懇親会・宿泊：指宿市鰻温泉

民宿うなぎ湖畔、民宿うなぎ荘

5月20日(日)

見学会 [5] 指宿麓・浦町 宮ヶ浜よかところ巡り

昼食：鹿児島ふるさと物産館

解散：鹿児島中央駅

以下は鹿児島研究会の参加記録です。今回は馬場麻衣さん（北総研）、延原理恵先生（京都教育大）、田中が分担いたしました。馬場さんと延原先生にはお忙しい中、原稿をまとめていただきありがとうございます。

■5月18日(金)午後 記録者：田中 勝（山梨大）

### 1) 見学会 [1]

初日午後はJR鹿児島駅に集合し、駅前からマルヤガーデンズまで古地図を片手に小山先生の丁寧な解説に耳を傾けながらのまち歩き。鹿児島市住宅協会によるビル建築、幅員50Mの公園、名山町の商店街など、時の流れや暮らしの変化を肌で感じながらレトロフト千歳ビルへ移動。ユニークな改装工事や内部しかけを見学後、再びマルヤガーデンズまでのまち歩き。丸屋本社の市村良平氏からマルヤガーデンズのレクチャーを受けたあと活発な意見交換がなされました。



### 2) 懇親会

夜の懇親会では鹿児島の海の幸と美酒を囲んで親睦と研究交流を深めることができました（写真は眞嶋二郎先生からご提供いただきました）。



■ 5月19日(土)午前 記録者：延原理恵(京都教育大)

レトロフト千歳ビル2階ギャラリースペース「レトロフトmuseo」において、友清貴和先生（鹿児島大学）による開会挨拶から始まりました。その後、豊嶋太朗氏（鹿児島県住宅政策室長）、小山雄資先生（鹿児島大学）からご講演いただきました。以下に、ご講演内容の要約を記させていただきます。

研究会『鹿児島県の住宅事情と住宅政策』

1) 鹿児島県の住宅政策

豊嶋太朗氏（鹿児島県庁土木部住宅政策室）

鹿児島県は離島が多く、人口減少期に入っている。高齢化は全国よりも3～4ポイント高く、高齢単身世帯が多い（近居が多い）という特徴がある。

【住宅問題】住宅着工状況によると、今後マンションの大規模修繕の時期を迎えるが、修繕積立金の不足が心配される。全国に比べ老朽化住宅が多く残っていて、活用方法に苦慮している。

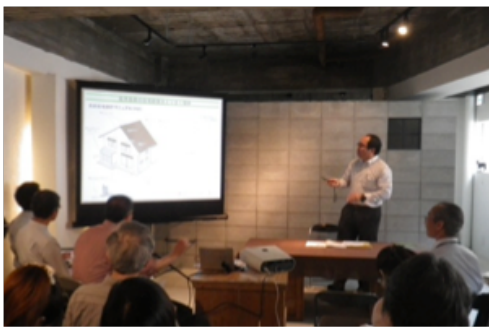
【災害】鹿児島県では克灰住宅設計マニュアルが作成されていたが、桜島の爆発回数が増え、2009年以降活発化していることから、公営住宅だけでなく民間住宅へも克灰設計が採用されているか見直していきたい。地元材を活用した鹿児島型応急仮設住宅の供給体制を震災前からつくる必要があるとWGを立ち上げ検討している。

【サービス付き高齢者向け住宅】鹿児島県では、医療法人が複合的サービスとして行っているケースが多い。住戸面積は18㎡の基準下限を満たしているタイプが多く、入居ニーズは広さよりも低家賃であることが求められている。実際、入居者の室内はベッドとTVがあるぐらいで家具は持ってきていない。

【公営住宅】1970年代から1980年代にかけて公営住宅が大量に建設されており、これから耐用年を迎えるが建替は考えにくい情勢にある。入退去者属性を表にまとめてみると、20代から30代で入居し、10年程度の入居期間を経て住宅を購入するなどして退去している層があることがわかった。一方で入居が長期化し、家族構成と住戸面積の関係やEVの無い高層階に暮らす高齢者といったミスマッチが生じている。公営住宅は受益者が限定されている

こともあり、理解が得られにくい。

【住宅政策】公的住宅から民間を活用する住宅政策への転換を模索しているところといえる。



2) 離島・中山間地域における定住支援としての公営住宅の現状

小山雄資氏（鹿児島大学）

鹿児島特有の課題と一般的な課題があるので、聞き分けていただければと始まった。

【離島・中山間地域】奄美の歴史は日本本土と違う独特の歴史がある。沖永良部島の公営住宅は近年4戸ずつ建設され、新しいストックも多い。シルバーハウジング、

気象庁宿舎の転用事例、定住促進住宅（町外からの移住希望者が定住探しをするため、1年未満滞在できる住宅）事例の紹介があった。公営住宅は学校を維持するために分散立地で建設している。公営住宅は人口フレームの設定が問題となるが、単なる人口推計だけでなく、



その地域の総合振興計画も関係してくるので難しい。

【鹿児島市の中の「過疎」】高齢化の進んだ錦江町の事例紹介。ここでは、公営住宅は公営住宅法にもとづく住宅で、町営住宅は公営住宅法にもとづかない定住促進住宅や学校共済による教職員住宅などを指す。人口フレームの設定問題は難しく、つくりやすい計画の理解が得られにくい。新規建設は定住促進住宅という方針がある。産業振興として住宅建設は、地元工務店を活かし、木造、低層となる。遊休化した住宅の転用・活用は、公的なストックではすでに展開しているが、民間の空家活用が今後の課題となっている。公営住宅には集落維持に果たしている役割があり、午後はその集落活性化住宅の見学に行く。

3) 質疑応答

多くの質疑が交わされました。一部を紹介します。

Q. 公営住宅の計画について

鹿児島の特徴なのかはわからないが、公営住宅には若年層も多く入居していて、10年程度で退去するという傾向があり、公営住宅から民間市場への流れに注目したい。

Q. サービス付き高齢者向け住宅

事例をみると住宅というより施設のような印象である。国土交通省の管轄だが、介護保険（特定施設入居者生活介護）の指定を受けられるよう介護サービスを付加した提供が望まれている。

Q. 鹿児島型応急仮設住宅

応急仮設住宅は、県と災害協定を締結している団体（プレ協、全木協、全建総連、全建連など）が占有的に建設している。鹿児島の実状にあった体制づくりを考えていきたい。



■ 5月19日(土)午後、5月20日(日)午前  
 記録者：馬場麻衣（北総研）

1) 見学会 [2] 中山間における集落維持に向けた試み

①既存集落活性化住宅（定期借家の市営住宅）

- ・3ヵ所に各2棟（3または2戸1）計15戸
- ・地域の活力には子どもの存在は欠かせない。また小学校がなくなるといことも地域衰退につながる。
- ・地域内の小学校の児童数の確保のために、定期借家制度を導入し、小学生のいる世帯および若い夫婦世帯を対象に入居者を募った。
- ・3年後には小学生はこの居住者だけになってしまう。ここがあって良かった(吉元氏)。



②ポスタルストアよか堂（簡易郵便局の多角経営化）

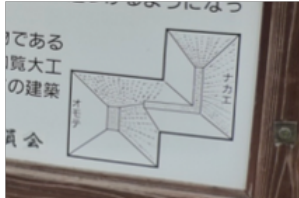
- ・錫山地区の郵便局が廃業したことをきっかけに認定を受けて郵便業務を併設するようになった（民営化後店舗併設第一号）
- ・地区の中心的位置にあり便利。この日は暑く公住の子どもや地域のお年寄りがアイスを買いに来ていた。
- ・隣接して地区歴史資料館を準備中。地域の家に眠っているものを借り受け展示することで、思い出を語ることのできる憩いの場を目指す。



2) 見学会 [3] 知覧の武家屋敷と庭園

①町並みと庭園の見学

- ・石垣と生垣からなる景観に特徴があり、琉球文化の影響を受け、屋敷入口には内部が見えないように屏風岩（沖縄のひんぶん）がある。
- ・平面構成は2つに分けられ、げんかんから座敷までが直線であるものと、げんかんから折れて次の間座敷と進み、トコに突き当たるものがある。



②佐多直忠邸内部見学

- ・江戸末期の住宅で唯一現在も同じ場所で生活している。
- ・「おとこげんかん」と「おんなげんかん」があり、前者は家主と長男のみが通ることを許され、中の「おもてぎしき」や「とこのま」にも女性が入ることは許されなかったが、近年ではあまり厳密ではなく、その人の考え方による。



3) 見学会 [4] 25年目の木造公営住宅（県営ウッドタウン知覧団地）

- ・県、知覧町、住宅供給公社などによる計148戸の木造住宅団地（うち75戸が公住）。2または3戸1が主流。
- ・セメント瓦や外壁は多少経年劣化がみられたが、武家門をイメージした門（物置を兼ねる）があり立派な住宅団地である。
- ・週末の午後、自家用車を排除した団地内通路では子どもたちがたくさん遊んでいた。

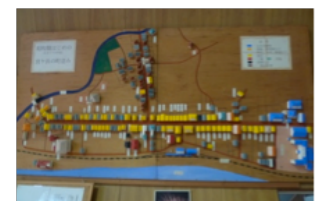


5/20 (日)

4) 見学会 [5] 指宿麓・浦町宮ヶ浜よかところ巡り

(案内：宮ヶ浜地区役員上野氏)

- ・指宿市宮ヶ浜地区には、海岸線と平行に走る国道（旧指宿街道）沿いに商家が建ち並ぶ。その経済力により、町が発展し守られたと言われている。
- ・街道沿いの商家は、道路拡幅のため屋根の一部が切り落とされセットバックしたため、特異なファサードとなっているが、後ろから見ると立派な造形である（一部は登録有形文化財）。
- ・暖かい地域にしか生育しないアコウの木であるが報国神社境内にあるアコウは、幹周りが14mと全国1位であり、昔から船頭さんが航行の目安にしていたと言われている。
- ・元々400人ほど入れる集会所があったが、取り壊されたため、その材料を使い、今の宮ヶ浜地区公民館が建てられた。中には、大きな舞台と調理場があり、昭和初め頃の町の模型が飾られている。



5) 感想

3日目はあいにくのお天気でしたが、降灰や食事も含めて鹿児島を満喫できました。知覧の武家屋敷での説明では、なるべく戸を開けて風を通し、家を長持ちさせたいとおっしゃっていました。窓がなく庭に向かって開放されていて、夏の湿気対策が大変なのだろうと暖かい地域の住文化を見て取れました。

また、小山先生、境野先生やマルヤガーデンズの市村さんなど、今回は若い方々の活躍を目の当たりにし、背筋が伸びる気持ちでした。一方、企画の良さにも関わらず参加者に若い人が少なかったのが残念でした。最後になりますが、小山先生、細かい心遣い、本当にありがとうございました。

## ■2013年度の小委員会活動計画 及び体制等について

### 1) 小委員会について

本小委員会は今年度末をもって設置期限を迎えます。もちろん小委員会活動は継続いたしますので、手続き上は現小委員会の廃止と、今後2年間の設置の申請書を、同時に提出することとなります。なお小委員会内には現在、「地域居住政策」と「住まい・まちづくり学習」の2つのワーキンググループを設けて活動していますが、これらも同様に廃止及び設置申請を行う必要がありますので、各主査の先生におかれましては今後の活動計画等についてご検討願います。

### 2) 小委員会の体制について

主査及び幹事等の任期も今年度末で満了となります。来年4月から2年間は新たな体制でスタートします。新体制や来年5月の公開研究会の開催日程・場所等については、名古屋研究会直前に開催する幹事会で検討する予定です。幹事のみなさまは次の通りお集まり願います。

日時：9月11日（火） 12：15～13：15

（住宅の地方性小委員会・名古屋研究会の直前）

場所：サンコート砂田橋集会所（住宅の地方性小委員会  
名古屋研究会の会場と同じ）

議題：1) 来年度以降の体制について

2) 大会研究協議会について

3) 来年度春の公開研究会について

4) その他

その他：昼食は事前にお済ませいただくか、お弁当等  
をご持参ください。

### 3) 来年度学会大会時の研究集会の企画募集について

来年度の建築学会大会は2013年8月30日～9月1日（予定）の日程で、北海道大学にて開催されます。研究集会（研究協議会、PD等）やオーガナイズドセッションをお考えの場合は11月上旬開催の建築社会システム本委員会での審議を経る必要がありますので、早めに主査までご相談ください。

### 4) 「若手奨励」特別研究委員会設置提案の募集について

建築学会では、若手会員に研究交流や新しいテーマに挑戦する機会を設け、調査研究活動をより活性化させることを目的として40歳以下のグループによる若手奨励特別研究委員会を設置する制度を2008年度から始めました。設置期間は2年以内で年度予算は1委員会あたり上限100万円です。2013年度に開始する委員会は4件程度採択予定とのことです。

応募資格を有する方が本小委員会の登録会員の中にもいらっしゃると思いますので、積極的にご検討いただきたいと思います。応募締切は10月26日です。諸手を踏む必

要がありますので、応募をお考えの方は早めに主査までご相談願います。

## ■登録会員の拡大について

本小委員会はオープンな形式を取っているのが特色です。小委員会活動を継続し、活動内容を豊かなものにしていくためにも、会員の増大や若手の加入が必要と考えています。地域の住まい、居住政策、住まい学習等に関心・興味のある方をご存じでしたら、お声かけをお願いいたします。特に大学院生（修士及び博士課程）や若手研究者の方々の積極的なご参加を熱望しております。

ご紹介が遅くなってしまいましたが、新会員をご紹介します。大分大学教育福祉科学部の川田菜穂子先生、鹿児島大学大学院理工学研究科の小山雄資先生、同・境野健太郎先生を新たに登録会員としてお迎えいたしました。川田先生は住居学を担当されています。小山先生と境野先生には鹿児島研究会の企画・準備・現地案内等でたいへんお世話になりました。

## ■会員連絡先の届け出について

会員のみなさまの所属、住所、電話番号、メールアドレスなどに変更があった場合には速やかに小委員会主査までご連絡願います。ご連絡がない場合には、この地方性通信をはじめとして各種ご案内のメール等がお手元に届かないこともあります。特に電子メールは現在、小委員会事務局からの基本的な連絡手段となっていますので、変更があった場合にはご面倒でもその都度ご連絡をお願いいたします。なお個人情報事務局で管理し、小委員会活動以外の目的には使用いたしませんのでご安心ください。